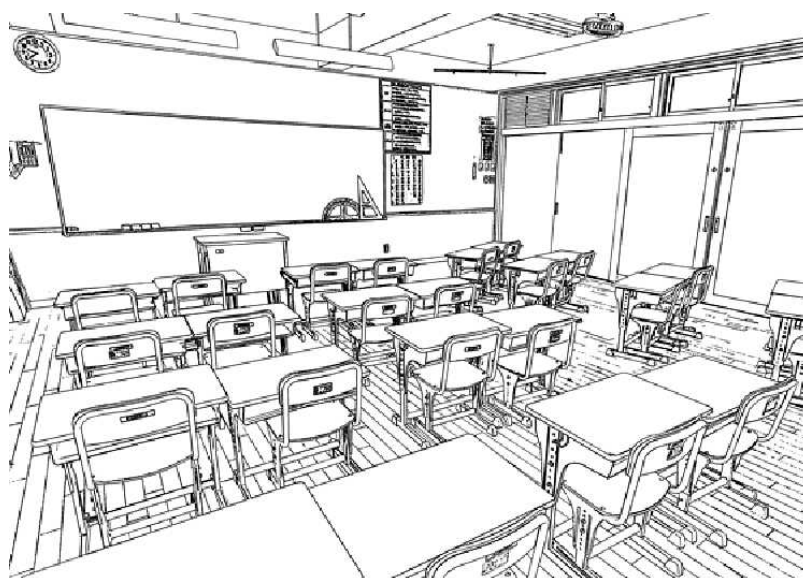


開倫塾 塾長メッセージ

2017年3月17日(金)

開倫塾の「学習の3段階理論」とは
— 「理解」 → 「定着」 → 「応用」 —



開倫塾
塾長 林 明夫

《たとえ短期間であっても、開倫塾に在塾している間に、開倫塾の塾生全員に「効果の上がる学習方法」を具体的に示した「学習の3段階理論」を身に付けさせよう。》

Q 1 : 開倫塾の「学習の3段階理論」とは何ですか。

A : (1)開倫塾の創業者である林明夫塾長が、1979年の創業以来考え続けた効果の上がる学習の方法です。多くの塾生、保護者、地域社会の皆様が学習する上で一番困っているのは、勉強の仕方がわからないことであるということを知り、取りまとめ始めたものです。

(2)学習を「理解」「定着」「応用」の「3つの段階(ステップ)」に分け、3つの段階それぞれにふさわしい学び方をわかりやすく具体的に例で示したのが「学習の3段階理論」です。

(3)「理解」とは、今学んでいることが「よくわかること」、「定着」とは「『理解』したことを身に着けること」、「応用」とは「『理解』『定着』したことを用いてテストでよい点数を取る、社会で役立てること」と、1つ1つのことばの意味を一「定義」を大切に—各々「定義」いたします。

memo

- (1)開倫塾では、「ことば」の意味について、ものごとの本質とは何かを「価値(大切さ)」「意味」「秩序」の3つの点から考え抜き、できるだけ「定義」付ける取り組みを行っています。
- (2)1つ1つのものごとを行うときには、各々の「価値(大切さ)」をよく理解した上で、自分なりに「意味付け」をすること。「だから、これはこのように行おう、これは行わないようにしましょう」と、自分なりのルール、決まりを決め、「秩序」立った行動をすることが大切と考えるからです。
- (3)「価値(大切さ)」「意味」「秩序」を大切に考えた上で、「自律的に行動する能力」を育成することが、「開倫塾の教育目標」の1つである「高い倫理」につながると考えます。
- (4)このような理由で、開倫塾では「定義」を大切にします。
- (5)ものごとに取り組むときには自分なりの「定義」を考えることを希望します。



Q 2 : 「理解」とは何ですか。

A : (1)「理解」とは、「うんなるほどとよくわかること、納得すること、腑(ふ)に落ちること」と「定義」します。

(2)「理解」には、自分一人で学ぶ(自学自習)の場合と、他人、つまり先生などから授業などで教わる場合があります。

*もちろん、家族や友人、知人、社会の人々から教えていただく場合もあります。

(3)「授業中の理解」のポイント

①手を机の上に置き、先生の目を見て一言も聞き漏らさないように真剣に話を聞くこと。

②先生の指示に従って積極的に授業に参加すること。

③「必要なことはすべてノートを取る」こと。「ノートを取る」ことができるのは、極めて高い言語能力の1つです。

④遅刻、欠席、早退、居眠り、おしゃべり(私語)、ケータイ、スマホ、ボーッとしていることは、「授業での理解」を著しく妨げます。ですから、できるだけ避けましょう。

⑤授業中によくわからないことがあったら、先生の許可を得て積極的に質問しましょう。意見があったら、先生の許可を得て積極的に発言しましょう。

(4)「自分で理解」するときのポイント(「予習」、「復習」、「自学自習」のポイント)

①まず学習する教材を決め(「教材決め」)、学校や開倫塾の先生のお話を教室でお聞きするような真剣さで、教材に書き記してある一語、一語を真剣に読み、これはどのようなことかを知る、「理解」する努力をすること。

②教材等に書いてある語句の意味がよくわからないときには、「気持ちが悪い」と思い、「辞書」や「用語集」、「参考書」などを用いてその意味を調べる。調べた内容は、必ず「ノートに書き写す」こと。「書き写した」ことは、その場で覚えること。

③「計算」や「問題」はすべて自分の力で「ノート」に解いてみる、答えを書いてみる

こと。

④「何がよくわからないかをはっきりさせてから授業に臨むこと」が「予習の意味」です。
*「予習」とは「何がわからないかをはっきりさせてから授業に臨むために行うもの」と「定義」します。

Q3:「定着」とは何ですか。

A : (1)「定着」とは、「うんなるほどとよく『理解』した内容を、スミからスミまで身に着けること」と「定義」します。

(2)「定着」のためには「音読練習」、「書き取り練習」、「計算・問題練習」が有効です。

(3)「音読練習」、「書き取り練習」、「計算・問題練習」の3つの練習を、開倫塾では「定着のための3大練習」と「定義」します。

Q4:「音読練習」とは何ですか。

A : (1)「音読練習」とは、「うんなるほどと一度『理解』したことを、スラスラとよく読めるようになるまで、声を出して読む練習をすること」と「定義」します。

(2)もし可能であるならば、スラスラとよく読めるようになったら、大事なところだけでOKですから、「何も見ないでスラスラと口をついて出てくるようになるまで、スミからスミまですべて覚えること」を目指してください。これを「暗誦(あんしょう)」といいます。

Q5:「書き取り練習」とは何ですか。

A : (1)「書き取り練習」とは、「音読練習をしてスラスラとよく読めるようになったことを、楷書(教科書の書体)で正確に書けるようになるまで書き取りの練習をすること」と「定義」します。

(2)「筆順」も大切です。

(3)「何も見ないで書けるようにすること」を「暗写」といいます。大切な内容は「暗写」を目指しましょう。

memo

(1)英語は「ブロック体」だけでなく、「筆記体」で「美しく書く練習」をすることをお勧めします。

(2)地名や人名などの固有名詞も正確に書けるようになるまで「書き取り練習」をしましょう。

(3)学校時代に習い覚えた語句は一生役に立ちます。また、一生覚えています。ですから、「このことばの書き取り練習をするのは、一生で一回きり、今だけだ」と考えて、気持ちを込めて書き取り練習をしましょう。

Q 6 : 「計算・問題練習」とは何ですか。

A : (1)これを「けいさん、ポチ、もんだいれんしゅう」と開倫塾では読みます。

(2)「計算・問題練習」とは、「なぜそのような解答になるかがよく『理解』できた計算や問題を見た瞬間に条件反射でパッパッパッと正解が出るまで計算練習、問題練習を繰り返すこと」と「定義」します。

(3)なぜそのような答えになるかについて、よく「理解」していない計算や問題は、答えだけ覚えても、あまり意味はありません。まずは「理解」に努めてください。どうしてもよく「理解」できなければ、学校や開倫塾の先生にどんどん質問してください。わかるようになるまで何回でも質問してください。

Q 7 : 「定着のための3大練習」をする上で大切なことは何ですか。

A : (1)「練習は不可能を可能にする」という慶應義塾塾長 小泉信三先生のことばがあります。

開倫塾では、「定着のための3大練習は不可能を可能にする。学校成績の大幅向上、希望校合格、3大検定毎年合格を可能にする」と考えます。

(2)ただし、「定着のための3大練習」の大前提は、「授業」や「自習(自己学習)」で「定着」させるべき内容がうんなるほどとよくわかっていること、つまり十分に「理解」していることです。

(3)十分に「理解」していない意味・内容でも、音読や書き取り、計算・問題練習を繰り返すうちに少しずつわかってくるという考えもあります。そのようなこともあります。が、「定着のための3大練習」をする前に、内容の「理解」に向けての取り組みをできるだけ行うべきと考えます。

(4)「ここに書かれているのはどのような意味なのか」、また、「なぜこのような解答になるのか」などと、その「意味」や「価値(大切さ)」を十分に「理解」した上で、「定着のための3大練習」を行い、「理解」したことをスミからスミまで身に付けてください。

(5)「定着のための3大練習」は、「学校の定期試験・実力テスト」「すべての入学試験」「すべての模擬試験」「3大検定(英語検定、漢字検定、算数・数学検定)」で絶大な効果を発揮します。

(6)もっと大切なのは、「授業中に取ったノート」や「意味調べノート」、「間違いノート」、「まとめノート」など、自分でつくったありとあらゆるノートを用いて、「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」を行い、それらの「ノートをスミからスミまで覚え切る」ことです。

*ですから、覚えやすいように、いつも「ノート」を「整理」することです。これらはすべて大切な「能力」です。

Q8：「応用」とは何ですか。

A：(1)「応用」とは、「試験でよい点数が取れること」と「社会で役立てることができること」と「定義」します。

(2)「学校の定期試験や実力テストで100点満点が取れること」、「入学試験や検定試験、資格試験、国家試験、採用試験等で合格点が取れること」と「定義」します。

(3)試験でよい点数を取るためには、「理解」、「定着」を図った上で「過去問」と「予想問題」を繰り返し学習することが最も効果的です。

(4)「過去問」とは、「その試験で過去に出題された問題」と「定義」します。

①多くの試験には「過去問」があります。試験の2～3か月前から「過去問」を数年分、最低でも5～6年分、できれば10年分以上を5～6回繰り返して学習すること。

②最低でも5～6年分、できれば10年分以上の「過去問」の、「本文」・「設問」・「選択肢」・「解答・解説」のすべてについて、「辞書」や「用語集」、「参考書」を用いて「理解」を図ること。十分に「理解」したあとは、「定着のための3大練習」を徹底的に行うこと。

③「間違いノート」と「まとめノート」を作成すること。

(5)「予想問題」も「過去問」と全く同じ手順を踏んで学習すること。

①開倫塾の「定期試験対策予想問題」、「模擬試験対策予想問題」、「入学試験対策予想問題」、「3大検定試験対策予想問題」などの「的中率」が極めて高いことは、定評があります。

②それらを授業などで解き、答え合わせをしたあとで、5～6回解き直し、辞書や参考書を用いて「理解」を図り、「定着のための3大練習」を繰り返すことは、絶大な効果があります。

(6)何年分の過去問に挑戦したらよいかは、試験の難易度によります。また、受験生の熱心さによります。どんな試験でも絶対に合格を目指すなら、最低でも5～6年分、ふつうは10年分以上、熱心な人は15～20年分以上、各々5～6回以上挑戦するようです。

Q9：社会で役立てる「応用」を図るためにはどうしたらよいですか。

A：(1)すべての科目の学習は学問体系に従ってでき上がっていますので、積み重ねです。ですから、学校や開倫塾で学んだことは上級学年や上級学校ですべて役立ちます。小学校で学んだ

ことは中学校で、中学校で学んだことは高校で役立ちます。高校で学んだことは大学・短期大学・専門学校・大学院で役立ちます。高校や大学等で学んだことはすべて社会で役立ちます。

- (2) このように、上級学校や社会で役立てるためには、学校や開倫塾で今までに学んだことを、必要に応じて即座に引き出せなければなりません。
- (3) ですから、大切なことは、学校や開倫塾で学んだ教科書・教材・資料・参考書、授業ノートは絶対に処分しないことです。できれば、すぐに取り出して見られるように、一生にわたって常に身近に置いておくことです。
- (4) 何かものごとを考えるときには、ゼロから考えることも大切ですが、教科書などを用いて、学校で学んだことをもう一度学び直してみるのが大切です。

Q10 : 「学力」とは何ですか。

- A : (1) 「学力」とは、「主体的に学ぶ力」と「定義」します。「自分から進んで学ぶ力」が「学力」です。
- (2) この意味での「学力」を身に着けるためには、「ハードな長時間自己学習」ができる能力を身に着けることが求められます。
 - (3) 「学習の3段階理論」をやり抜くには、「ハードな長時間自己学習」と「主体的に学ぶ力」が不可欠です。

Q11 : 「ハードな長時間自己学習」ができるのは大切な能力なのですか。

- A : (1) その通りです。
- (2) 何がわからないかをはっきりさせて授業に臨むという意味での「予習」には、膨大な時間が必要です。ことばの意味を調べるのにも、計算や問題を解くのものにも、ノート整理をするのにも時間がかかります。
 - (3) 十分に「理解」した内容について、スラスラとよく読めるようになるまで「音読練習」をし、楷書で正確に書けるようになるまで「書き取り練習」をし、計算や問題を見た瞬間に条件反射で正解が出るまで「計算・問題練習」をするのにも膨大な時間を要します。
 - (4) 最低でも5～6年分以上、できれば10年分以上の過去問に5～6回挑戦し、「間違いノート」「まとめノート」を作成するのにも膨大な時間を要します。
 - (5) この「ハードな長時間自己学習」をすることができるのは、大切な能力です。この能力はすぐには身に着きません。しかし、この能力は上級学校でも、社会に出てからも、本気で勉強するとき・本気でものごとに取り組むときに必ず役立ちます。
 - (6) 現代は「知識社会」です。知識が基盤となった社会で生き抜く上での大きなヒントが、学校で学んだ内容の中にたくさん含まれています。
 - (7) 自覚を持って「主体的に学ぶ」中で、少しでもこの「ハードな長時間自己学習」を行う能力を身に着けてください。



Q12：最後にお聞きします。「教育の成果を決定する要因」とは何だと考えますか。

A：(1)「本人の自覚」だと考えます。

(2)「何のために学ぶのか」「進学をした学校で何がしたいのか」「何のために働くのか」「社会に出て何がしたいのか」「どのような人生を歩みたいのか」などを自分の力で考える。自分なりに「高い志」を立て、そのために今何をしなければならないかを「自覚」して「主体的に学ぶこと」が大切だと考えます。

(3)開倫塾では、本人の自覚を促すことを目的にした「武者語り(むしゃがたり)」を毎回の授業で3分以上することを、すべての先生が心掛け、実行しています。

(4)開倫塾で「武者語り」をお聞き、開倫塾の塾生として自覚をもって勉強するために御活用ください。

(5)開倫塾のHPの左下にある塾長のHPの内容は、そのための参考資料です。

(6)2017年3月4日(土)で31年を迎えたCRTラジオ栃木放送「開倫塾の時間—林明夫の歩きながら考える」毎週土曜日9:15～9:25放送(1530kHz、1062kHz、864kHz)は、塾長のラジオ放送による「武者語り」です。塾長のHPに、その速記録があります。是非、御活用ください。

2017年3月17日

(宇都宮大学大学院工学研究科客員教授)

